

平成29年12月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社sMedio

(東証マザーズ:証券コード3913)

<http://www.smedio.co.jp/>

平成29年8月9日(水)

本資料の無断複写、無断転用はしないで下さい

本資料の要因分析は、当社が適切と考える方法で実施している点、ご理解下さい。



Copyright© sMedio, Inc. All rights reserved.



1. 平成29年12月期 第2四半期連結決算概要(PL)	・・・ P3
2. 平成29年12月期 第2四半期連結決算概要(BS)	・・・ P4
3. 連結売上高推移	・・・ P5
4. 連結売上高増減要因(計画比)	・・・ P6
5. 連結営業利益・連結経常利益推移	・・・ P7
6. 連結営業利益増減要因(計画比)	・・・ P8
7. 通貨別預金残高	・・・ P9
8. 本資料の取扱について	・・・ P10

1. 平成29年12月期 第2四半期連結決算概要(PL)

単位:百万円

	2016年 1-6月	2017年 1-6月	前年同期比	
売上高	689	585	△104	△15.1%
売上原価	309	271	△37	△12.2%
売上原価率	44.8%	46.4%	1.5%p	
売上総利益	380	314	△66	△17.5%
販管費	226	271	45	20.2%
営業利益	154	42	△112	△72.6%
営業利益率	22.4%	7.2%	△15.2%p	
営業外収益	1	1	△0	△9.5%
営業外費用	158	1	△156	△99.1%
経常利益	△1	42	44	—
親会社株主に帰属する 第2四半期純利益	△11	9	20	—

(注) 数値は単位未満切捨て。
その影響で合計が一致しない場合あり。(以下のスライドも同様)

(売上高) 前年同期の大きな開発案件の反動減や出荷台数が前年同期を下回った影響が大きく、新規子会社(タオソフトウェア株)の貢献はあったが、売上高は△104百万円の減収となった。

(営業利益) 子会社増加、のれん償却負担増加および本社移転関連費用などで販管費が増加したことも加わり、営業利益も大きく減少。

(経常利益、最終利益) 為替差損の計上がなくなり、経常利益、最終利益は黒字に転換。

2. 平成29年12月期 第2四半期連結決算概要(BS)

単位:百万円

資産	2016年 12月末	2017年 6月末	前期末比
現金及び預金	1,364	1,495	131
売掛金	80	47	△32
棚卸資産	379	334	△45
その他	50	45	△4
流動資産合計	1,874	1,924	49
有形固定資産	18	18	0
ソフトウェア	57	43	△14
のれん	185	175	△9
その他	2	2	0
無形固定資産	245	221	△24
投資その他資産	27	26	0
固定資産合計	291	266	△25
資産合計	2,166	2,190	24

(資産)

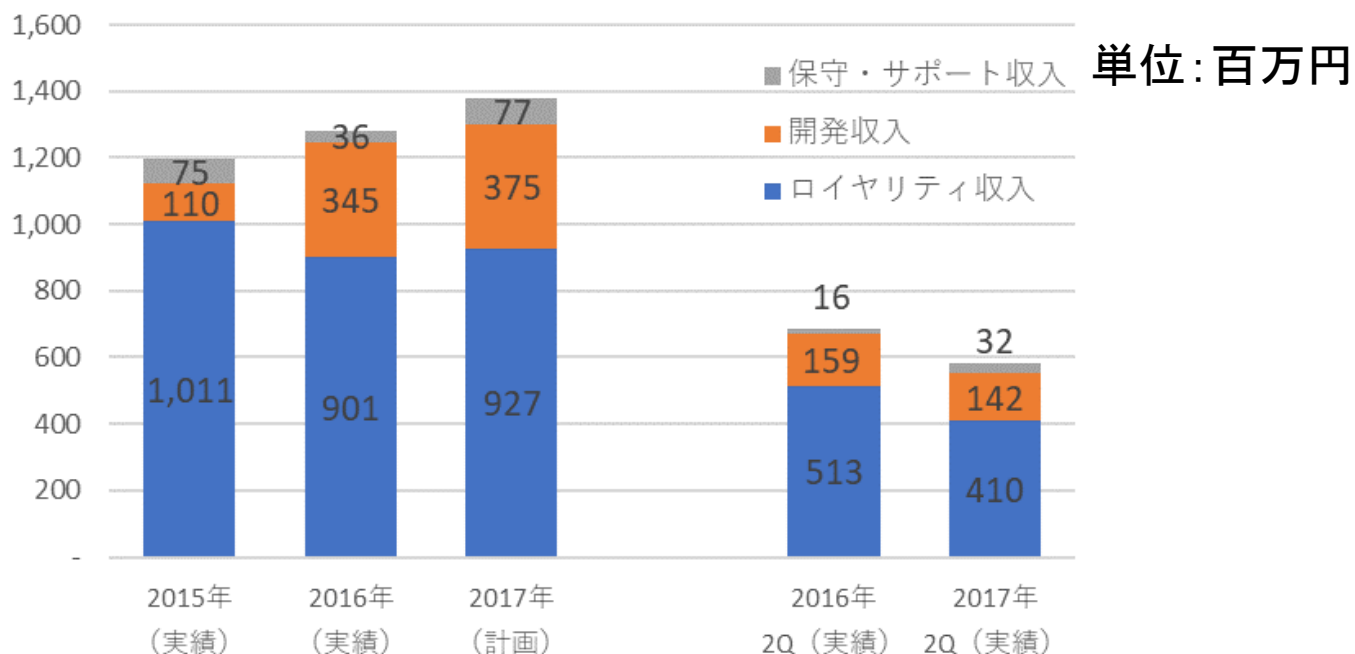
原材料(前払いしたロイヤリティ)の払い出しにより、棚卸資産が45百万円減少。

負債・純資産	2016年 12月末	2017年 6月末	前期末比
買掛金	33	23	△10
短期借入金	133	125	△8
未払法人税等	7	31	23
前受収益	19	15	△3
賞与引当金	1	9	8
その他	49	122	72
流動負債合計	245	326	81
長期借入金	249	187	△62
その他	18	13	△4
固定負債合計	268	200	△67
負債合計	513	527	13
自己資本	1,652	1,662	10
純資産	1,652	1,662	10
負債純資産合計	2,166	2,190	24

(負債)

借入金の約定返済により、長短合わせて借入金が70百万円減少。

3. 連結売上高推移



売上高合計	1,196	1,282	1,380		689	585
-------	-------	-------	-------	--	-----	-----

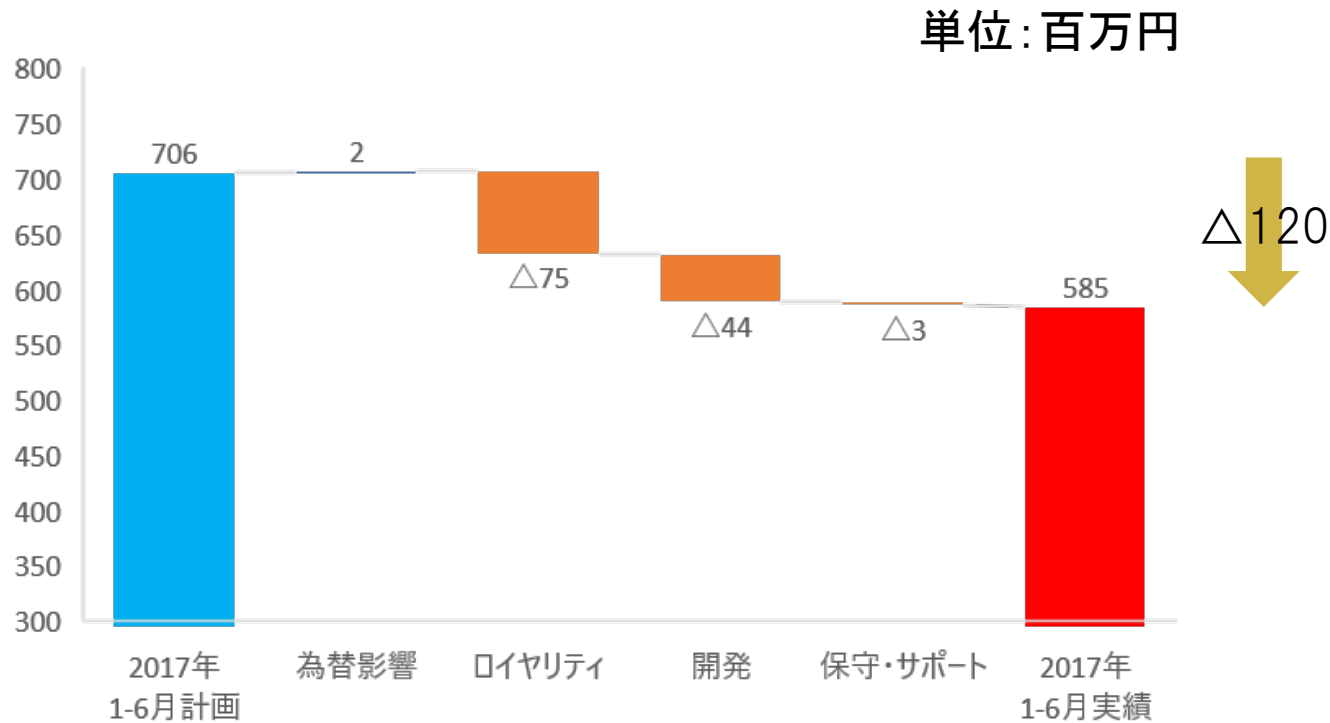
(ロイヤリティ収入)

当社ソフトウェア搭載機器の出荷台数が前年を下回ったことで前年同期比△103百万円。

(開発収入)

前年同期の大きな開発案件の反動減と新規子会社(タオソフトウェア株)の貢献で微減。

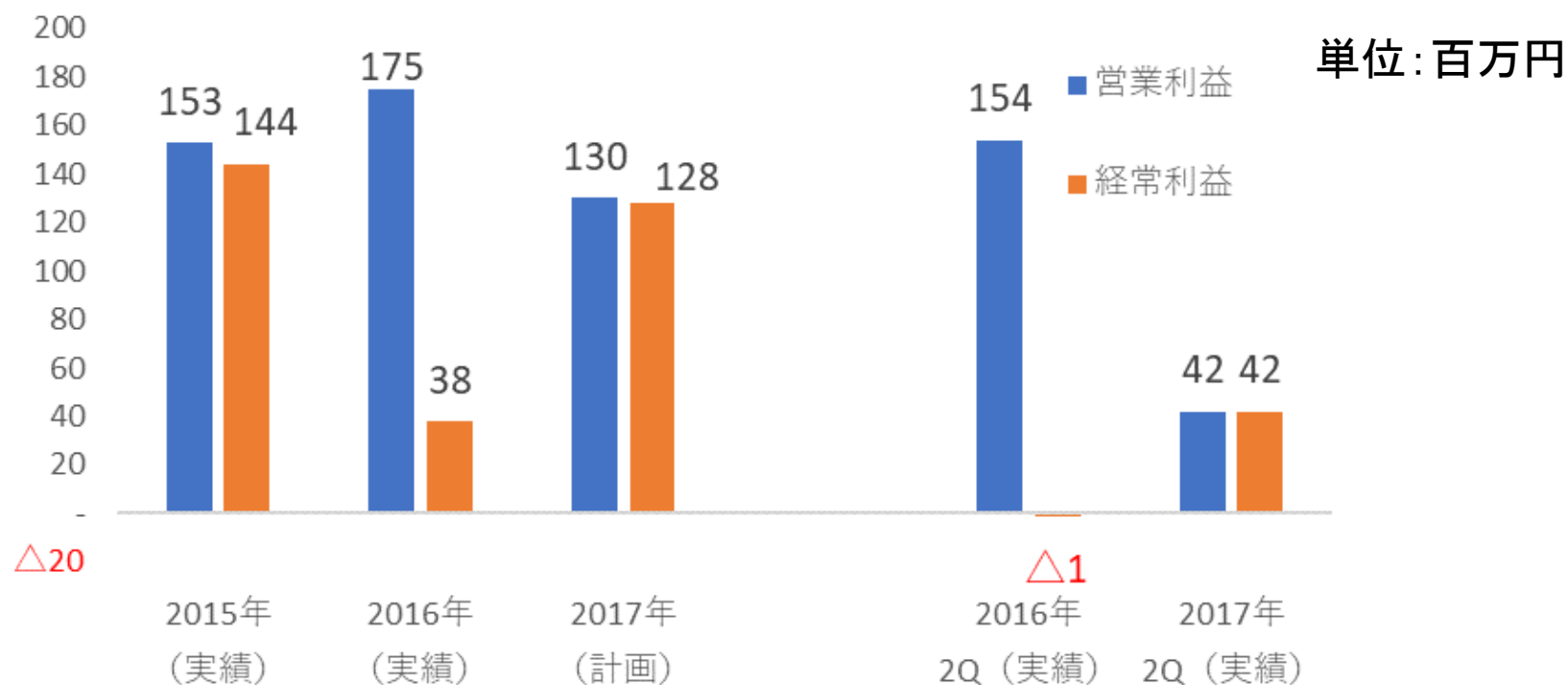
4. 連結売上高増減要因(計画比)



(ロイヤリティ収入) 当社ソフトウェア搭載機器の出荷台数が予想を下回ったことおよび新規ロイヤリティ製品の出荷延期などで計画比 $\Delta 75$ 百万円。

(開発収入) 納品・検収の前倒しおよび後ろ倒しがあった影響などで計画比 $\Delta 44$ 百万円。

5. 連結営業利益・連結経常利益推移



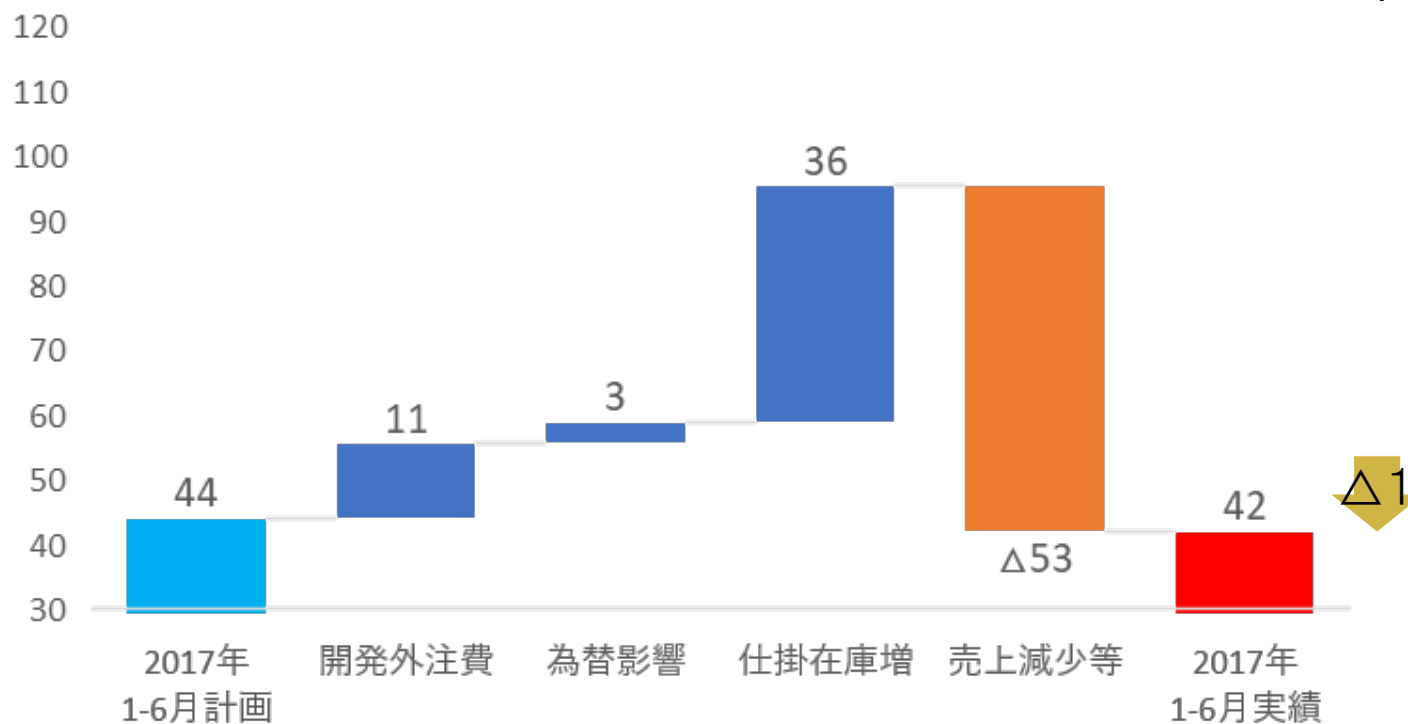
営業利益	153	175	130		154	42
経常利益	144	38	128		Δ1	42

(営業利益) 売上高の減少、子会社増加による販管費増加、本社移転関連費用(約20百万円)発生により落ち込む。

(経常利益) 外貨保有高を減らす、為替予約を活用することで、為替による影響を低減し、2Qは黒字に転換。

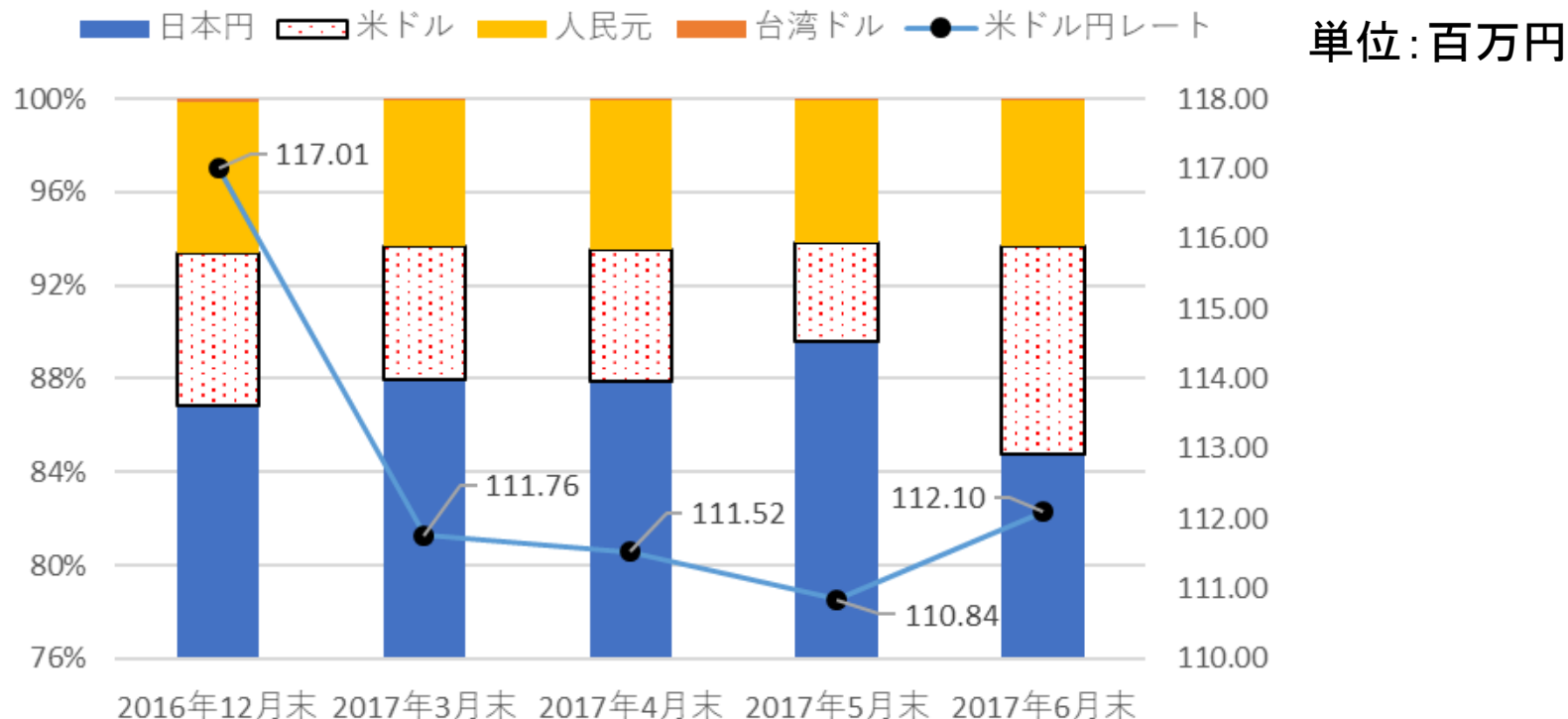
6. 連結営業利益増減要因(計画比)

単位:百万円



開発外注費を抑制できたが、売上減少等の影響を補いきれず、若干、計画を下回った。

7. 通貨別預金残高



現預金合計	2016年12月末	2017年3月末	2017年4月末	2017年5月末	2017年6月末
	1,364	1,364	1,350	1,458	1,495

現預金の85%程は日本円で保有しており、日本での米ドル保有は3%程度であり、残りの約12%は海外子会社が保有する現地通貨となっている。(米国子会社で一時的に預り金が生じたため、6月末で米ドルの割合が上昇。)

当3Q以降の米ドル建ての売上に対して、3Q以降は3割弱を為替予約で円貨固定を実施済であり、為替リスクの低減を図っている。

本資料は、株式会社sMedio(以下、「当社」といいます。)の決算情報の説明のために作成されたものであります。

本資料に記載されている計画や見通し、将来展望などは、本資料作成時点において入手可能な情報に基づき、当社が合理的と考えるものであります。これらには、様々なリスクや不確実性が内在しています。

様々なリスクや不確実性には、既知のものもあれば、未知のものもあり、当社が発表している計画や見通し、将来展望、将来の業績などが、実際の業績などと異なる結果となる可能性があり、当社として、それらの実現を保証するものではありません。